

MfG_J_Nagaoka_midtown

MfG_J_Hoshino_Kahoko_presen_町なかコース案_



星野嘉保子さんと周囲の人物から

July, 2024 by Kasuga

町なかガイドで、何を
メインテーマに
御案内するか？

戊辰の役？
空襲戦災史跡？

西園寺公望揮毫の
「以成肅雍之徳」、
星野嘉保子像の
復元像をもとに

教育を縦糸に、
アートほかの話題を
横糸に御案内するのも
可能ではないか？

話題は、私の限られた関心事のみです。

みなさんのなかにも、
『私も、こんな話を加えたい』と
感じておられる方がおられると思います。

ご自分の『話題の本棚』と見比べながら、
お聞きいただけたら、と思っています。

カイドコースの私案

教育の系譜コース

藩校・誠意塾、藝娼妓裁縫傳習所、囂外鬻

町なかアートコース

ミライエ、駒形十吉さん

石油産業の跡コース

柿川沿い中島の往時の製油所跡、
戦災前の石油産業関連工場跡

カイドコース 教育の系譜、アート私案

前半 藩校・誠意塾
昌福寺、興国寺、眞照寺

藩校 九代忠精公

東隣に有隣亭 家老の山本老迂斎・高野余慶・秋山景山。

後の、山本帯刀、高野五十六、そして秋山孝さん。

誠意塾 塾長 高橋竹之介、
塾生に堀口久萬一、武石貞松、大竹貫一ら。

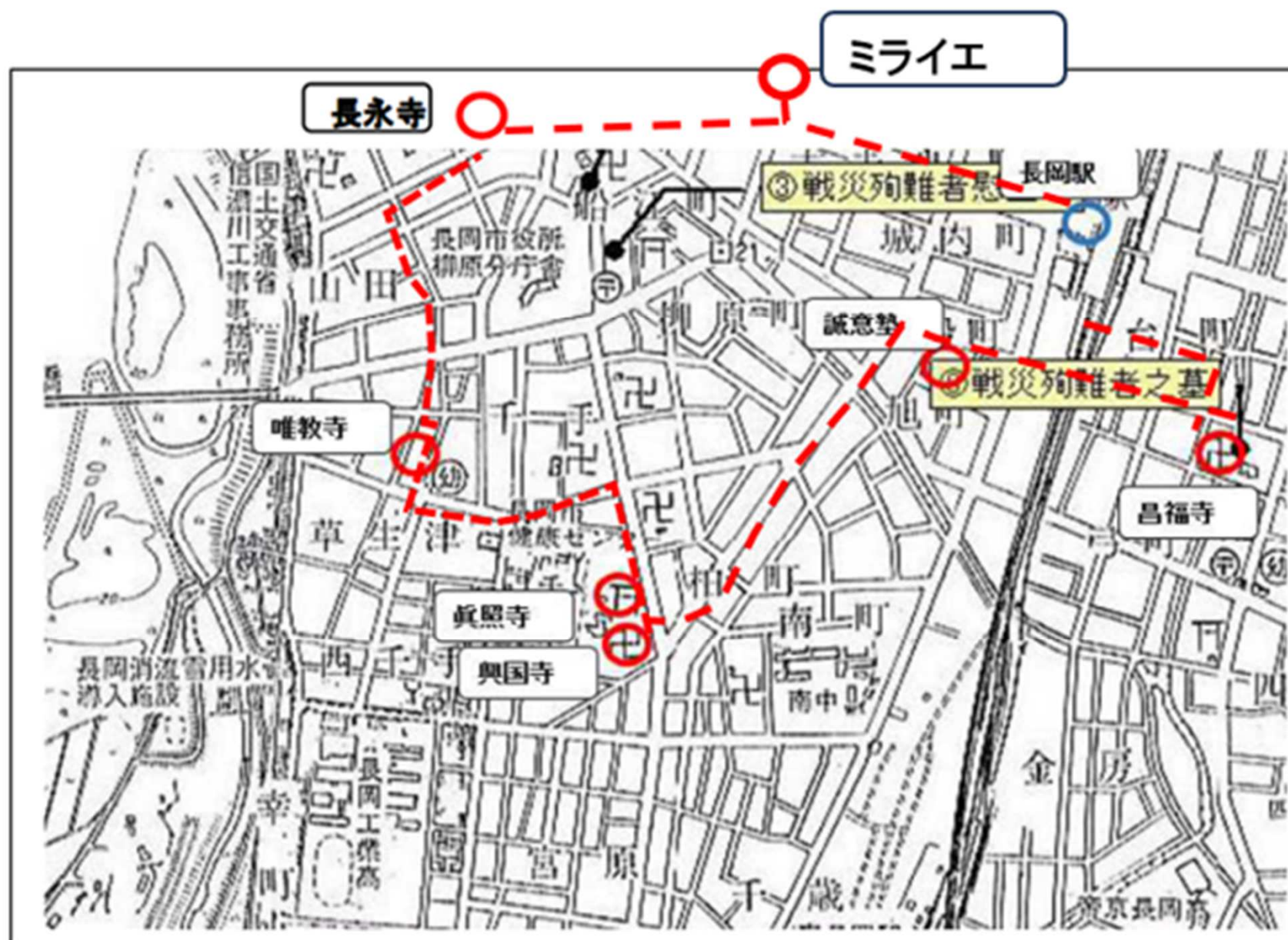
興国寺に寅三郎

眞照寺に竹之介、武石貞松

後半 唯教寺、長永寺、西福寺、
米百俵プレイス・ミライエ

西園寺公望、竹山屯、嘉保子と野本りい
木曾恵禅、岸宇吉、相馬御風
摂田屋に意外な訪問者
長岡藩の長岡は軍事都市
ミライエ 大勢のなか、今回は
長岡のアートと駒形十吉さん

駅東口から、
時計回りに
ぐるりと回って
大手口までの
合計距離
4,650m
のコース案です。



昌福寺 (明治2年の国漢学校仮校舎跡) 長岡駅東口から500m
(東口を東に進み、福島江を過ぎて、阪之上小を左に右折、昌福寺へ)

誠意塾跡 (高橋竹之介開塾の漢学塾跡、長命堂飴舗) ~550m

崇徳館 (都講の秋山景山、戊辰のメンバー) ~100m

追廻橋 種田山頭火が初代互尊文庫を詠んだ句碑。必須の紹介

興国寺 (小林虎三郎関連) ~誠意塾跡から 700m

千手 八幡神社 (牛久保・三つ葉柏由来の神社より牧野氏勧請) ~50m

眞照寺 (高橋竹之介関連) ~250m

唯敬寺 (星野嘉保子復元像、西園寺公望の碑文原本の書) ~600m
(事前に住職様に依頼し、本堂の公望の書と添書き拝観をお勧めします)

長永寺 (木曾恵禅、星野嘉保子、野本恭八郎) ~1000m

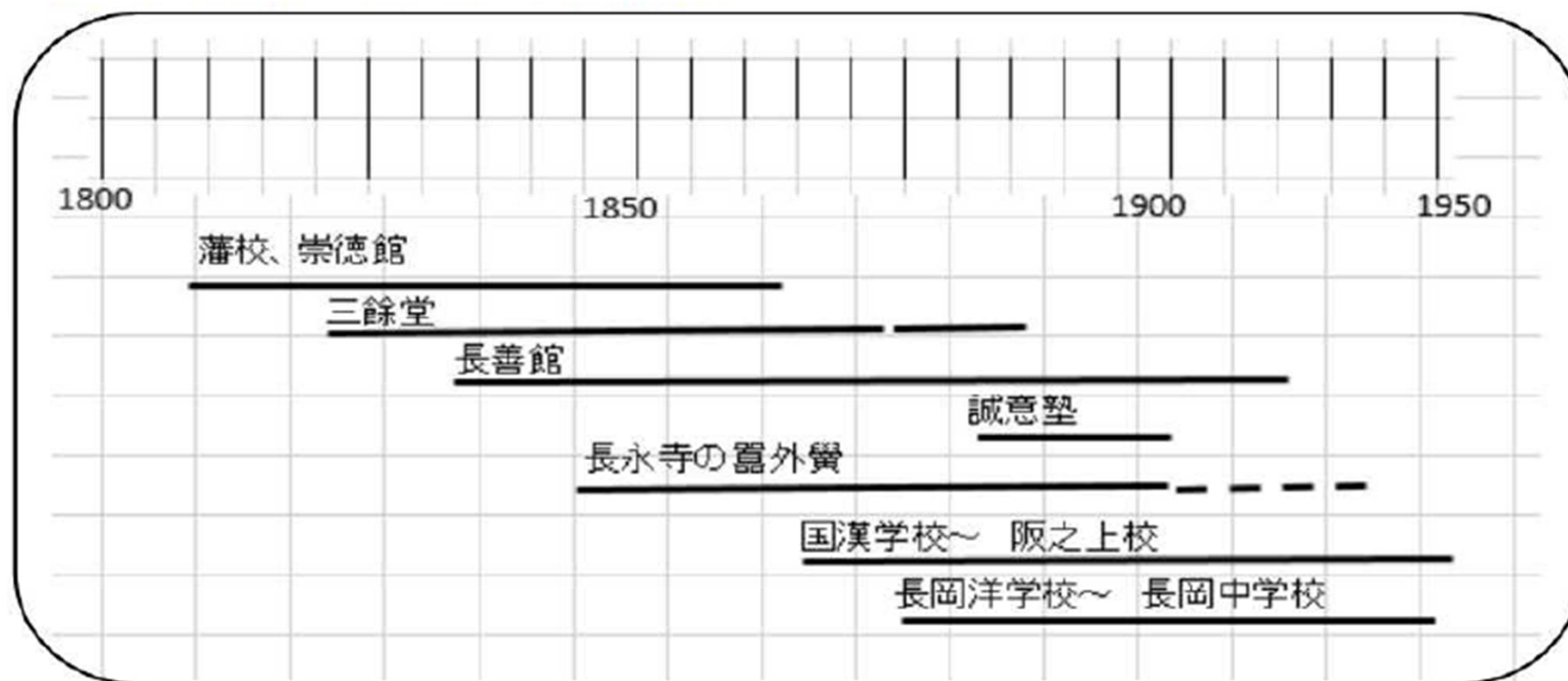
西福寺 (岸宇吉ら岸家のお墓、新政府軍からの名称でしょうが維新の暁鐘)
(柿川対岸の北側に、明治・大正期の製油所群がありました)

ミライエ (明治5年の国漢学校跡) ~400m、長岡駅大手口へは更に500m

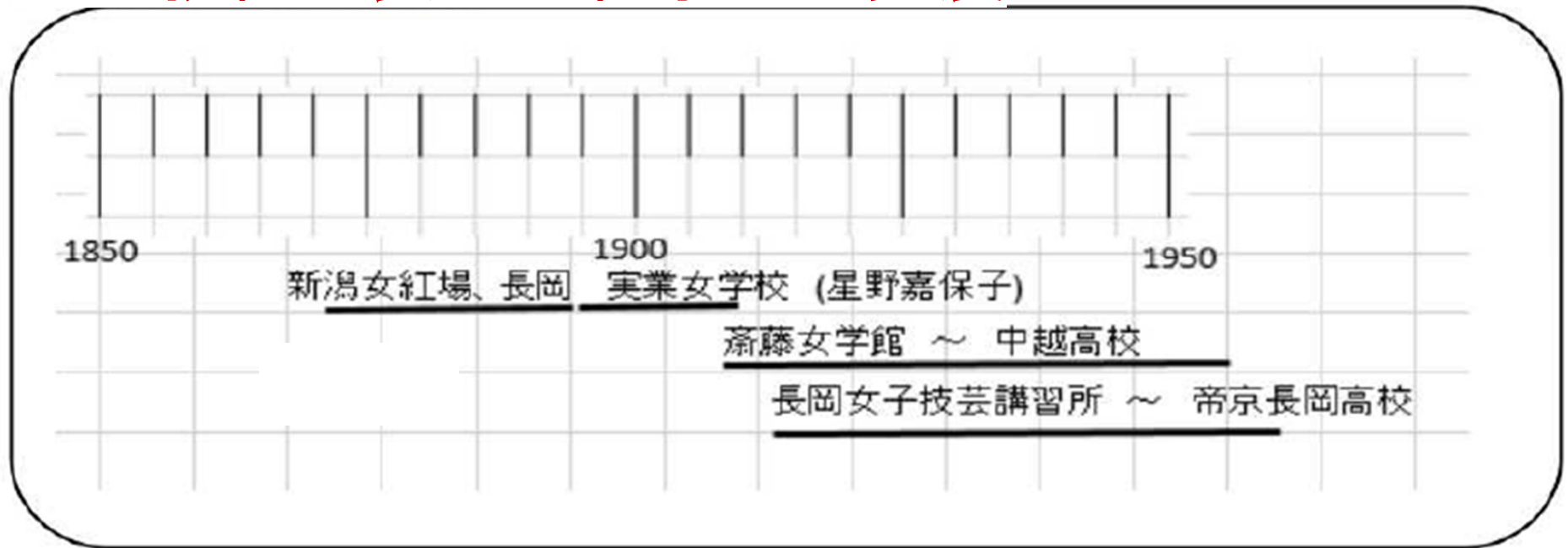
長岡駅東口---長岡駅大手口で、歩く総距離は、概略 4,650m です。

殿町の教育関連の話題からスタートです

藩校、漢学塾から国漢学校、長岡洋学校



女子教育～長岡の私学への発展



各部の名称

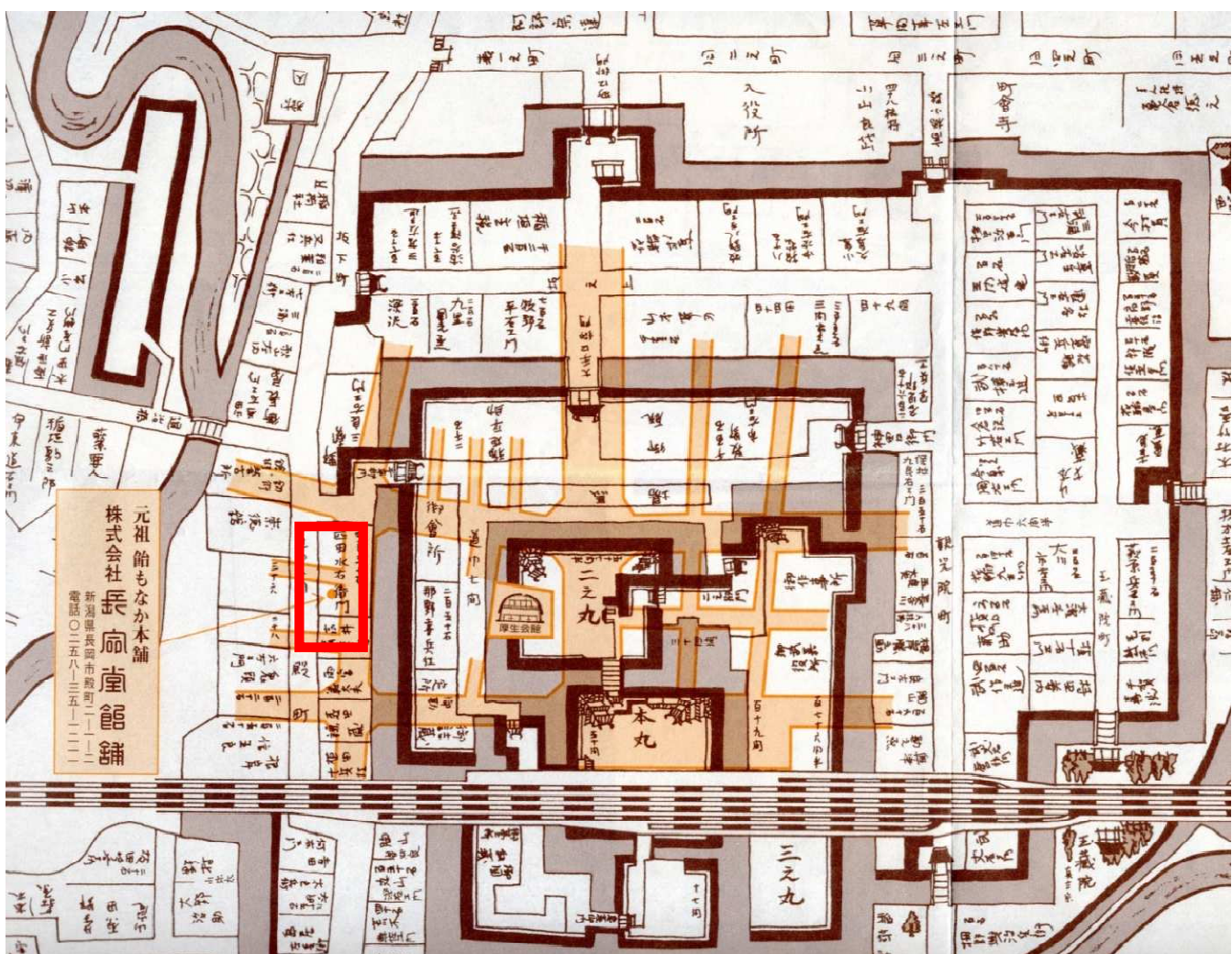
北

東

南

西

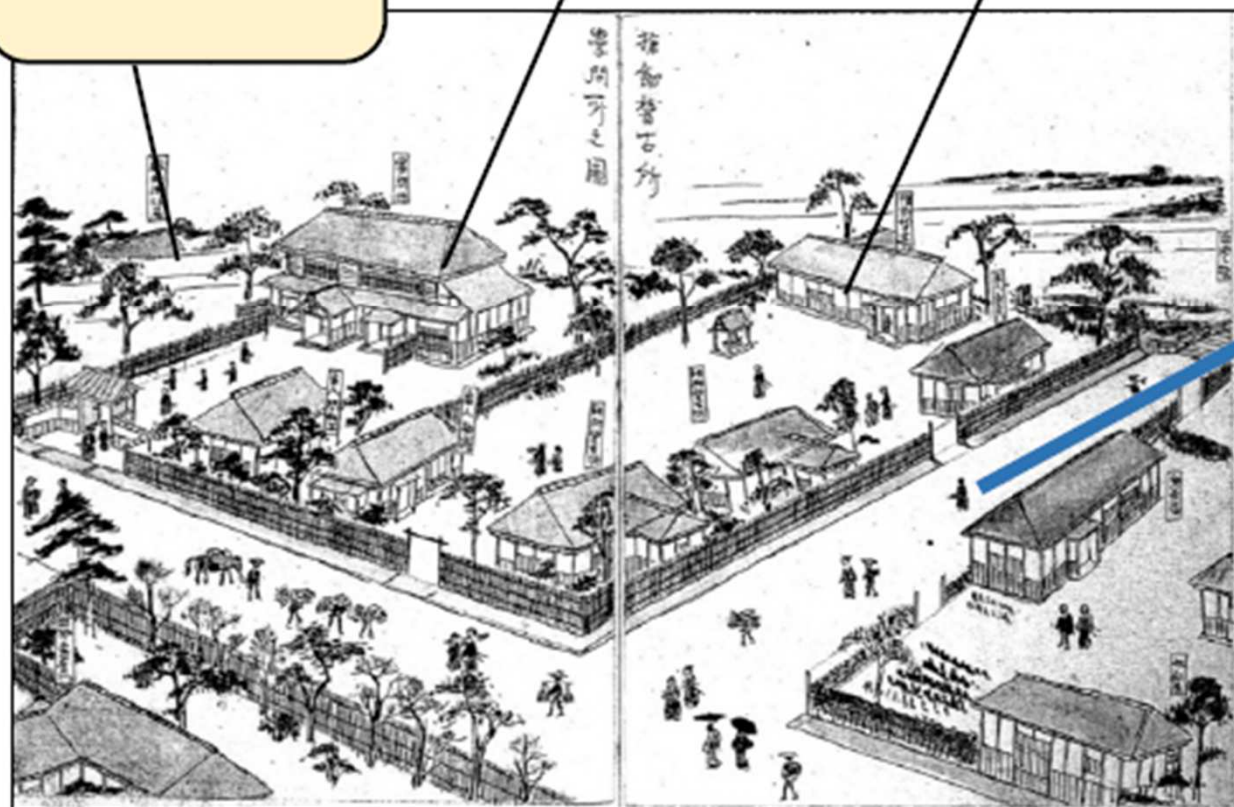
- ① 御本丸 ② 二之丸 ③ 三之丸 ④ 本丸御殿 ⑤ 御三階 ⑥ 御駕竈部屋 ⑦ 九間御門 ⑧ 塩御門 ⑨ 城内御門 ⑩ 二之御門 ⑪ 桜御門
 ⑫ 太鼓櫓 ⑬ 御作事所 ⑭ 御武器役所 ⑮ 矢場 ⑯ 東廓 ⑰ 皂 御門 ⑱ 上台所 ⑲ 太鼓御門 ⑳ 御勘定所 ㉑ 御会所 ㉒ 稲垣平助邸
 ㉓ 御馬場 ㉔ 御厩 ㉕ 牧野市右衛門邸 ㉖ 神田口御門 ㉗ 稻荷山王社 ㉘ 観光院御門 ㉙ 玉蔵院 ㉚ 河井継之助邸 ㉛ 神田橋御門
 ㉜ 高橋口御門 ㉝ 高橋御長屋 ㉞ 山本帯刀邸 ㉟ 大手御門 ㊱ 町口御門 ㊲ 御除地役所 ㊳ 坂之上御門 ㊴ 千手口御門 ㊵ 崇徳館
 ㊶ 殿町御住居 ㊷ 四郎丸口御門



隣接の
藩主別邸

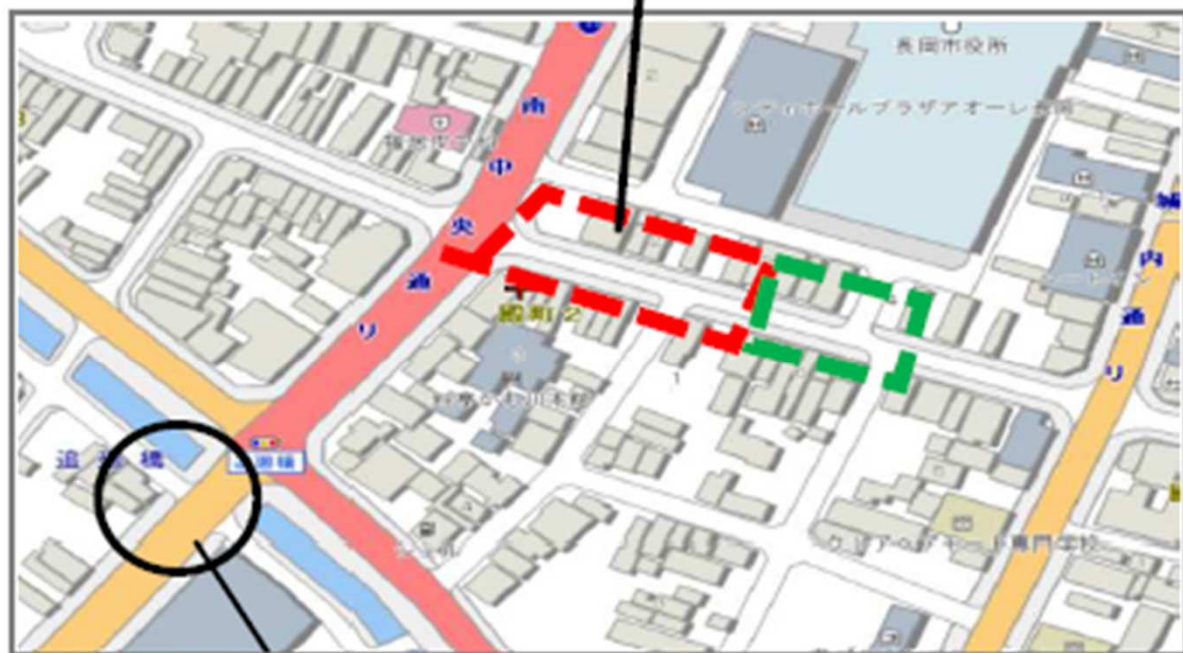
学問所

槍剣稽古所



南の
方向

藩校、藩主別邸の
予測位置(各、赤と緑)



追廻橋と柿川

ここにいた人物

藩校 九代忠精公が藩校創設、
1823年に東隣に有隣亭を建て、
家老の山本老迂斎・高野余慶・秋山景山。

後の、山本帯刀、高野五十六、そして秋山孝さん。

誠意塾 塾長 高橋竹之介、塾生に堀口久萬一、
武石貞松、大竹貫一ら。

堀口久萬一、武石貞松の双像

中之島長呂の
「友情の双像」

写真の
和服姿が
武石貞松、
洋服姿が
堀口久萬一





「友情の双像」の、大學による紹介文「双像余情」

双像余情

武石弘三郎子ハ双像和服貞松先生ノ末
弟 像及若宮御尊前神狗の製者也 我
大学子ハ双像洋服堀口九万一先生が長子

双像及コノ碑ノ撰文者タリ 二子ノ出
生大字長呂ト深シ ソノ芸術ニヨリ大学
トタダナラズ 果セル哉一子北越ノコノ
平和ナ豊穰境ヲ愛シ長ク里人ト親シ 里
人悦ビテ吉慶アルゴトニ二子ヲ招イテ歡
儘スヲ常トス依テ碑ノ成ル所以也

昭和三十七年六月

大字長呂里人一同ニ代リ大學之ヲ撰ス

友情の双像の
制作の発端は、
長呂若宮社の
2代目神狗の
制作依頼から。

(この一対の神狗の神々しさ。
竹之高地不動社の一対と
ともに、長岡の美しい狛犬に
挙げられると思っています。)



作者は、初代神狗、双像と同じく
武石弘三郎

堀口久萬一ら4名の登場人物と
各々が関わった壮大な歴史、それも日本だけでなく、
ヨーロッパ、南米、さらに文学、美術にも関わる、
『良質な大河ドラマ』の可能性ありと思っています。

山本五十六の生涯にも関係があります。

火坂雅志さんに、『天地人』のような長編を
書いてほしかった。

多くの歴史小説をものした方でした。残念です。

小林虎三郎

興国寺

高橋竹之介、武石貞松 眞照寺

高橋竹之介の墓碑に武石貞松の撰文。

竹之介は、三島億二郎の一周忌に
億二郎の功績を讃える長句を捧げています。

小林虎三郎の米百俵の話は、長岡観光の大切なコンテンツですが、なかなか説明の機会がありません。

昌福寺、国漢学校跡も、あくまで場所の跡。

興国寺の門前が、逸話を含め、唯一のチャンスかも知れません。

予備知識のない他県からのゲストの場合、簡潔な説明だけでも、準備をお勧めします。

(米百俵の群像、阪之上小伝統館と、ガイド訪問が難しい。、ここの門前を逃したくありません。)

- ①小林虎三郎が降伏文書を執筆したこと。
- ②長岡藩が「罰としての国替え」を回避できたのは、稲垣平助の懇願のおかげという説。
- ③新潟県柏崎県と学校への波。

②もし「国替え」となったら、後のオイルシティの恩恵はなかったことになり、稲垣平助の功績は非常に大きい。『稲垣平助の懇願』が真実なら、稲垣平助は、長岡復興の功労者のひとりとして、評価されるべきかも知れません。

③新潟県柏崎県と三島億二郎、小林虎三郎

新潟県		柏崎県		億二郎、虎三郎			
明治元年	4・19	新潟裁判所	長岡藩	二人とも藩の大参事 版籍奉還願い出 5月国漢学校仮校舎 5月三根山藩から米百俵 明治三年長岡廃藩(*1) 柏崎県大参事 8月虎三郎 疎まれ東京へ 明治五年11月 長岡洋学校の創設			
	5・23	越後府				7・27	柏崎県
	9・21	新潟府				(11・5 廃県 布達のみ、実現せず)	
明治二年	2・22	新潟県	2・8	越後府	2・22		
			7・27				
明治三年		水原県		8・25	柏崎県		
	3・7	新潟県					
明治四年				10・22			
明治五年				11・20			
				6・10			

国漢学校の変遷

明治3年6月 旧市役所跡に新校舎,
医学局を併置

明治4年5月 長岡小学校と改称

明治5年 学制発令により長岡分黌

君不見子戈落、戊辰年
 驚破四海太、眠戰線
 傑參帷幕 先生幾人
 砲煙含枚夜渡、丁鴻
 將事業輸微涓、校病
 老益壯、開拓北海、渾
 白雲駕龍仙、跡杳空
 緑哭杜鵑 明治廿六年
 於 靈前 三島先生

高橋竹之介が、
 三島億二郎の一周忌に
 功績を讃える長句を捧げた。

明治26年(1893)5月5日、故三島億二郎(1825-1892)の追悼会。
 この書幅は、殿町で「誠意塾」を開いていた竹之介(1842~1909)が、
 三島の活動や業績を偲んで作った長句で、この追悼会に捧げられた。
 竹之介は、このとき51才。誠意塾開塾から十五年以上になっている。

戊辰では敵味方に分かれたが、明治18年(1885)、三島億二郎、
 大橋一蔵らと北越談話会を開いて産業文化を振興したという縁もある。
 (北越談話会を開いたことは、燕市教育委員会「長善館ものがたり」p22)

砲 英 汪 公 復 和 花
 破 英 立 擬 錄 連 新

前半の殿町から千手は、ここで終わり。

後半は、西側の寺院で、

星野嘉保子、西園寺公望、竹山屯 唯教寺

木曾恵禅、野本恭八郎 長永寺

岸宇吉 西福寺

このなかから、いくつかのトピックス。

ゲストの関心事に合わせて話ができたら、
ゲスト・ガイドの双方、楽しい時間を
過ごせると思っています。

唯教寺の関連

唯教寺は、長岡藩の戦略物資集積基地。
長生保育園園内を流れる赤川は、
内川からの延長水路跡で、新潟湊に直結。

星野嘉保子の実家

竹山屯は義理の兄弟

西園寺公望の越後戦線従軍侍医
星野家、竹山家は南蒲原の医家の名家

唯教寺関連のうんちく

ブロンズではなく、
大理石像のため、
戦時金属供出を免れた
竹山屯像。

大きな大理石像です。
新潟市の竹山病院理事長宅
の倉庫に長年、眠っていたも
のが、近年公開されました。



新潟大学医歯学図書館3階の記念室

大理石像の場所

新潟大学
医歯学図書館3階



明治維新後の竹山屯 関連年表

新潟の医学の礎は 竹山屯にあり

1869年5月：新潟町検断 鈴木長蔵、新潟寺町 正福院内に施蘭薬院を開設。

現・新潟市中央区西堀通七番町。

施薬・種痘に携わったが、資金が続かず、まもなく廃止。

施薬・種痘のほか、一等主医 竹山屯により医学教育がなされた。

経費は港仲金（すあい：港の関税）によって賄われた。

1870年11月：仮病院、寺町通四ノ丁に移転。

1871年8月：一等主医 竹山屯辞任、医学教育中止。

1873年7月：新潟町横三番町町会内に私立新潟病院開設、医学所を併設。

現・証谷小路 第四銀行本店付近。

1873年11月：私立新潟病院、現在の医学町通に移転、開院式挙行。

現在の新潟県医師会館から白山公園の一带。

1875年3月：竹山屯、副医長・助教授として復帰。

1876年4月：私立新潟病院から県立新潟病院に改称。

1879年7月：新潟医学校附属病院と改称。

新潟医学校は乙種で、予科1年・本科4年。初代校長：竹山屯。

江戸期依頼、南蒲原は、越後の医学をリード

竹山屯、長谷川泰、ともに長善館に学んだ。
中之島を含む当時の南蒲原は、医学の先進地。
明治期に天皇侍医など、多くの高名な医師を輩出した。

竹山屯の竹山家は、眼科の名医の家系で、
屯の父の時代、その高名を聞き北海道からも患者。
自身も、ときに一週間、小千谷方面等に出張診察。

長永寺の関連

稲川先生の「互尊翁」も、町なかガイドネタ満載の本だと思います。

長岡商人
ランプ会メンバー
石油・工業
長岡、明治の教育
仏教

...

稲川明雄 著

五右衛門翁

野本恭八郎

新潟日報事業社

渡里町の長永寺に、明治二十二年五月二十六日に、
おぐるすこうちよう小栗栖香頂師を招いて婦人法話会が開催されている。
その中心にいた女性が星野嘉保子^{かほこ}という女傑であつた。

星野は、りいの十歳年上。西蒲原郡の船越村（旧岩室村・現新潟市）生まれで、父の生家である長岡町医星野宗詮の養女となった。星野の家は表二之町にあつて、渡里町の野本家とも近かった。

嘉保子には許婚^{いいなすけ}がいたが、明治八年に没した。以後、生涯、独身を通すとともに、得意の裁縫を芸娼妓に教えている。

星野嘉保子は、とりわけ法話会の開催に熱心だった。有識者や僧侶を招いて、法話会を主催するのである。

その法話会の片隅には、星野の指示で、芸娼妓も聞くことがあった。

野本りいは星野嘉保子から読み書きを習っていたか

野本互尊翁の互尊文庫ほか社会貢献の原資は？

彼自身の商売による利益とともに、
実兄・権三郎の発行した日本石油株の配当も
大きかったと思います。

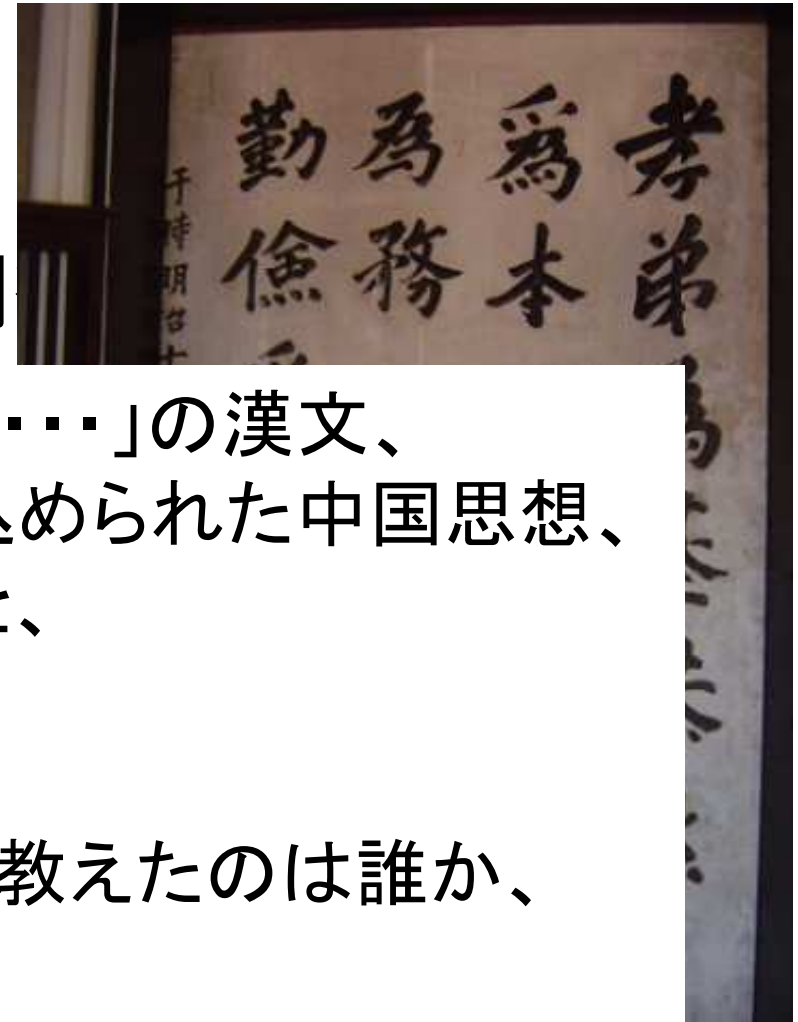
叔父・万吉が所有し、今も残る、市中心部の広大な土地
を思うと、山口家一族の財力の大きさが分かります。

長永寺関連のうんちく

摂田屋商家の当主らに中国の学問

摂田屋の星野本店の土蔵扉の「孝弟為基・・・」の漢文、
同じく摂田屋の機那サフラン酒の罎絵に込められた中国思想、
そうとう高い教養がもとになっているはずと、
考えておりました。

そして、これらを摂田屋の商家の当主らに教えたのは誰か、
ずっと気になっておりました。
ところが、



長岡郷土史第11号 1972の

塚田正之助氏「大道校と殿町の塾と囂外鬻」の木曾恵禅の項で、

『文化十二年(1815)十一月二十九日、西蒲原郡砂子塚村長宗寺清水恵亮の二男に生まれて庭訓をうけ、十才のとき同郡熊之森の竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、二年後の天保元年(1331)二月には鈴木文台から経義および史学を学んだ。

...

布教するには演説がもっとも手っとり早く、効果的なところから、彼は、明治十一年、僧侶の子弟を集めてこれを練習させ、長岡を中心に見附・今町・摂田屋の寺院で演説会を開き、あるいは、同十四年、長岡警察署の委嘱で栃尾や魚沼地方に巡回講演を・・・、』とありました。

木曾恵禅師は、竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、鈴木文台から経義および史学を学んだ、とあり、漢書を学び、中国の古典思想にも親しんだと想像されます。

これらより、もしかしたら、摂田屋の商家の当主らに教えたのは木曾恵禅師かも知れないと、考えました。

恵禅師なら納得です。
もう少し調べまして、根拠を探したいと思いますが、個人的には「大発見」でした。

西福寺の関連 岸宇吉

1839年(天保10年) – 1910年(明治43年)

岸家の菩提寺

ランプ会

1869年(明治2)の春にはじまる。

～藩士らが放浪から帰国して間もなく。

会場は岸家の離れ。

ランプ会

舶来品の品評、長岡の自立復興策、これからの
商工業についてなどを語り合う情報交換の場。
現代に例えていうなら商工会議所のような
役割を果たしたようです。

ランプと灯油



第一次大戦までは、石油需要の大半が灯油で、国内産の石油から精製。

第一次大戦後、石油メジャーが日本進出に食指。**その阻止のため**、日本石油と宝田石油が合併した。

少なくとも明治期、日本の石油採掘、そして灯油への精製の大半を長岡、**中島の製油所群**が担っていたことを、もっとPRしたい。

岸家関連のうんちく①

岸宇吉の息子・吉松が、みなさんがよく見る写真に写っています。

山本五十六記念館で、五十六の石油油田視察の写真です。

吉松のテキサス州南東部にあった農園に噴出した石油の生産状況の視察です。
オレンジ石油会社は1921年に設立。

岸家関連のうんちく②

岸商店の分家の一つが、横枕の「お福酒造」。

現在の酒造りの主流、速醸酏の開発。

仕込み初期に乳酸と酵母を同時に添加し、

雑菌汚染を防ぎつつ酵母増殖させる酒母製造方法。

乳酸添加は1894(明治27)年、「お福酒蔵」の創業者、
岸五郎氏が創案。

軟水による酒造りを可能にし、東日本に多い、
酒造りに不向きとされた軟水による酒造りを可能にし、
「淡麗辛口」、「淡麗甘口」を定着させた貢献者。

寺院で、もうひとつ、とっておきのネタ。

長岡は軍事都市の顔も、持っていました。

幕末には、日本の対ロシア防衛も
託されていました。

(新潟上知は、処罰ではないのです。)

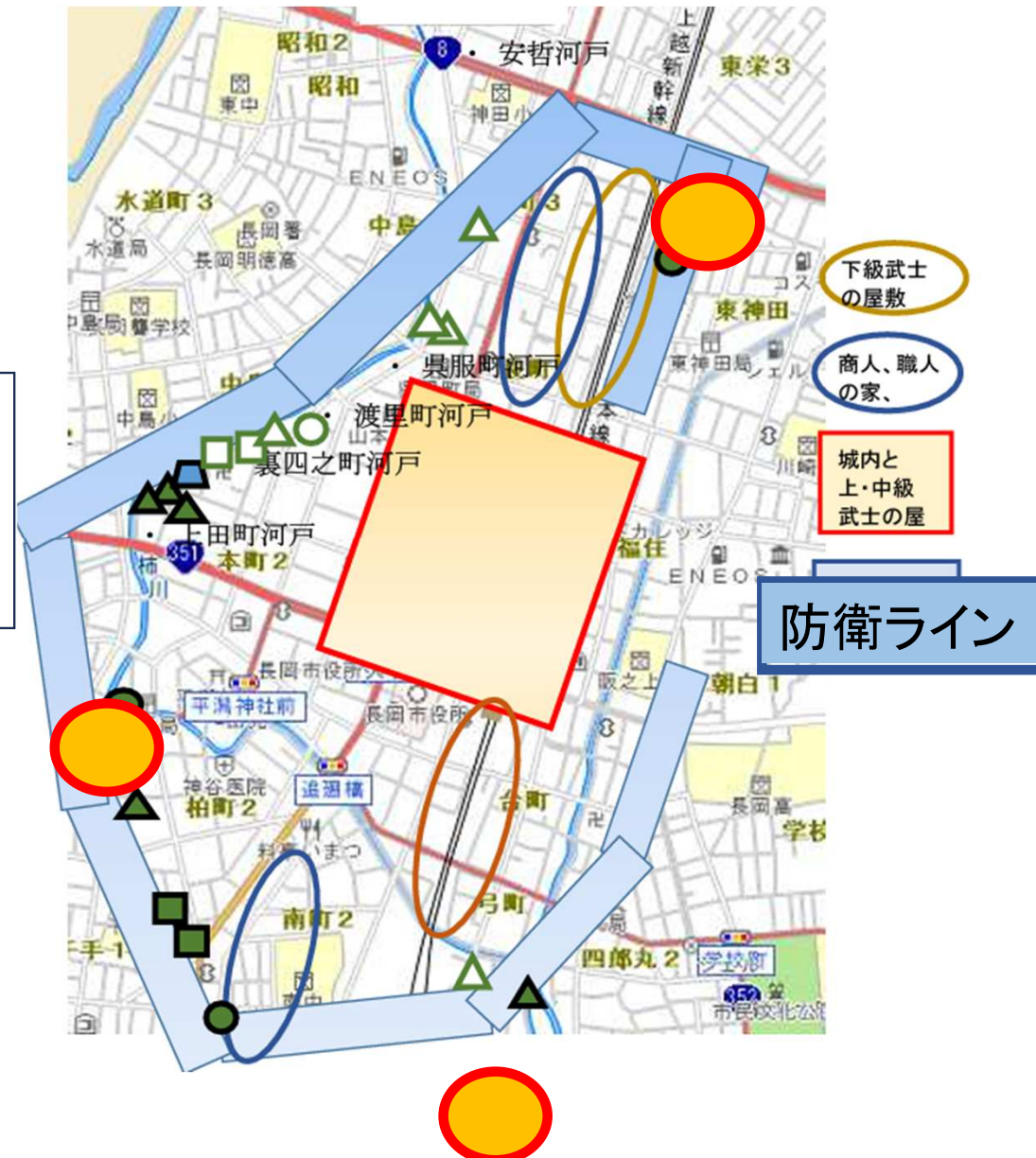
長岡は軍事都市、いざというときの拠点

北の防衛	長町二丁目の正覚寺
南の防衛	摂田屋の光福寺
西の防衛	渡里町の西福寺、西入寺、長永寺
兵站	草生津の唯教寺(内川、赤川)

寺院が、まさに防衛ライン

○	堀氏入府時、前領地より	●	牧野氏入府時、前領地より
□	堀氏入府時、蔵王より	■	牧野氏入府時、蔵王らより
△	堀氏入府時、蔵王以外より	▲	牧野氏1650頃、御蔵建設で寺町より移設

三寺院とも、浄土真宗
本願寺派というのも、
幕府なり、殿様の堀・牧野の
意向があった筈ですが。



県内でも、高田、新発田、村上に、
防衛ラインと思われる寺町が存在します。

とくに高田の寺町は、寺密度日本一といわれ、
城の西側に60を超える寺院が
軒を連ねています。

集積した寺院群は、防衛ラインが多いようです。

アートを含め、ラストは、米百俵プレイス・ミライエ

産業振興関連話題	教育の系譜関連話題
岸宇吉(1839- 1910)	三島億二郎(1825-1892) ○ ●
関矢孫左衛門 ○	1. 教育関連の億二郎関連人物図
山口権三郎 (1838-1902) ○	2. 江戸から昭和初期の長岡の教育の年代図
山田又七 (1855-1917) ○	木曾恵禅 (1817-1896) ○ ●
久須美秀三郎 (1850-1928) ○	互尊翁野本恭八郎 (1852-1936) ○
田村文四郎 (1870-1917) ○	秋山景山 (1758-1839) ○ ●
駒形十吉(芸術家支援も) ○	竹山屯(1840-1918) ○
ミライエ及び長岡のアート関連話題	高橋竹之介(1842~1909) ○
斎藤義重よししげ 1904 - 2001)○	西園寺公望 (1849-1940) ○
亀倉雄策(1915 - 1997)○	橋本禅巖(1899-1994) (山本五十六関連) ○ ●
豊口協(1933) ○ ●	星野嘉保子 (1847-1904) ○
秋山孝(1952-2022) ○ ●	
武石弘三郎 (1877年-1963年)○	
堀口大學(1892-1981) 詩○	

○ 文中に概説有り ● 撰田屋にも話題

軸としてお話し

長岡の、もうひとつの顔 アート、文学の薫りあふれる町

ミライエ及び長岡のアート関連話題

斎藤義重よししげ 1904 - 2001)○

亀倉雄策(1915 - 1997)○

豊口協(1933) ○ ●

秋山孝(1952-2022) ○ ●

武石弘三郎 (1877年-1963年)○

堀口大樹(1892-1981) 詩○

山道にも



元井達夫「星との話」1984

近隣の武石弘三郎作ブロンズ像、大理石像

(全てでは、ありません)

堀口九萬一、武石貞松	中之島・長呂の若宮社参道脇「友情の双像」
星野嘉保子（復元像）	草生津・唯敬寺本堂前
田村文四郎（オリジナル縮小像）	悠久山・堅正寺脇（オリジナルは北越製紙内）
久須美秀三郎	越後線小島谷駅前
久須美東馬	弥彦公園内 瓢箪池の傍
池原康造（復元像）	新潟市・新潟大学医学部池原記念館前
竹山屯（大理石像）	新潟市・新潟大学医歯学部付属図書館三階
新津恒吉（復元像）	新潟市・リ्यूーとぴあ入口前
狛犬（本人による再製作）	中之島・若宮社（初代の狛犬は戦時供出）
老母	県立近代美術館所蔵(お嬢さんから寄贈)
今井藤七（本人による縮小像）	県立近代美術館所蔵
裸婦像レリーフ（大理石像）	県立近代美術館所蔵

米百俵プレイス

多くの切り

数年後には、長
も、もともと設置
”上空”に再登場



大光銀行、長岡現代美術館のコレクション 駒形氏個人のコレクション

- ・現代絵画は
全国の美術館へ売却。
大作など残った作品は、県立近代美術館へ寄託。
- ・日本人画家の近代洋画は
県立近代美術館
- ・現代日本画、陶芸、ほかは
駒形十吉記念美術館

私の一押し

開館の年1964年に開催の
第1回長岡現代美術館賞展。

その第一席を競った
作品のひとつで、
森本紀久子さんの作品。



後半のルートで

新しい教育、新しい商売の息吹を感じてもらえたらと思います。

このなかから、長岡商人の集団が生まれ、田舎町ながら、日本美術院の画家達を頒布会開催などで支援する風土が生まれたことも、興味深い話題と思います。

駒形十吉氏で、忘れてはならないこと

兄の二代宇田七さんの後をついで、さまざまな事業、そして開基直前の堅正寺も。

その堅正寺で住職の橋本禪巖師が講演。
その講演録で知られるようになった山本五十六の言葉が、現在、五十六語録として残っています。

もし、駒形十吉氏が修行道場としての堅正寺を
支援継続しなかったら、語録は残らなかったはず。

駒形十吉氏で、もうひとつ、忘れてはならないこと

1946年、第四代商工会議所会頭として、
市民を元気づけようと、長岡復興祭りを
8/2,3に開催を企画。

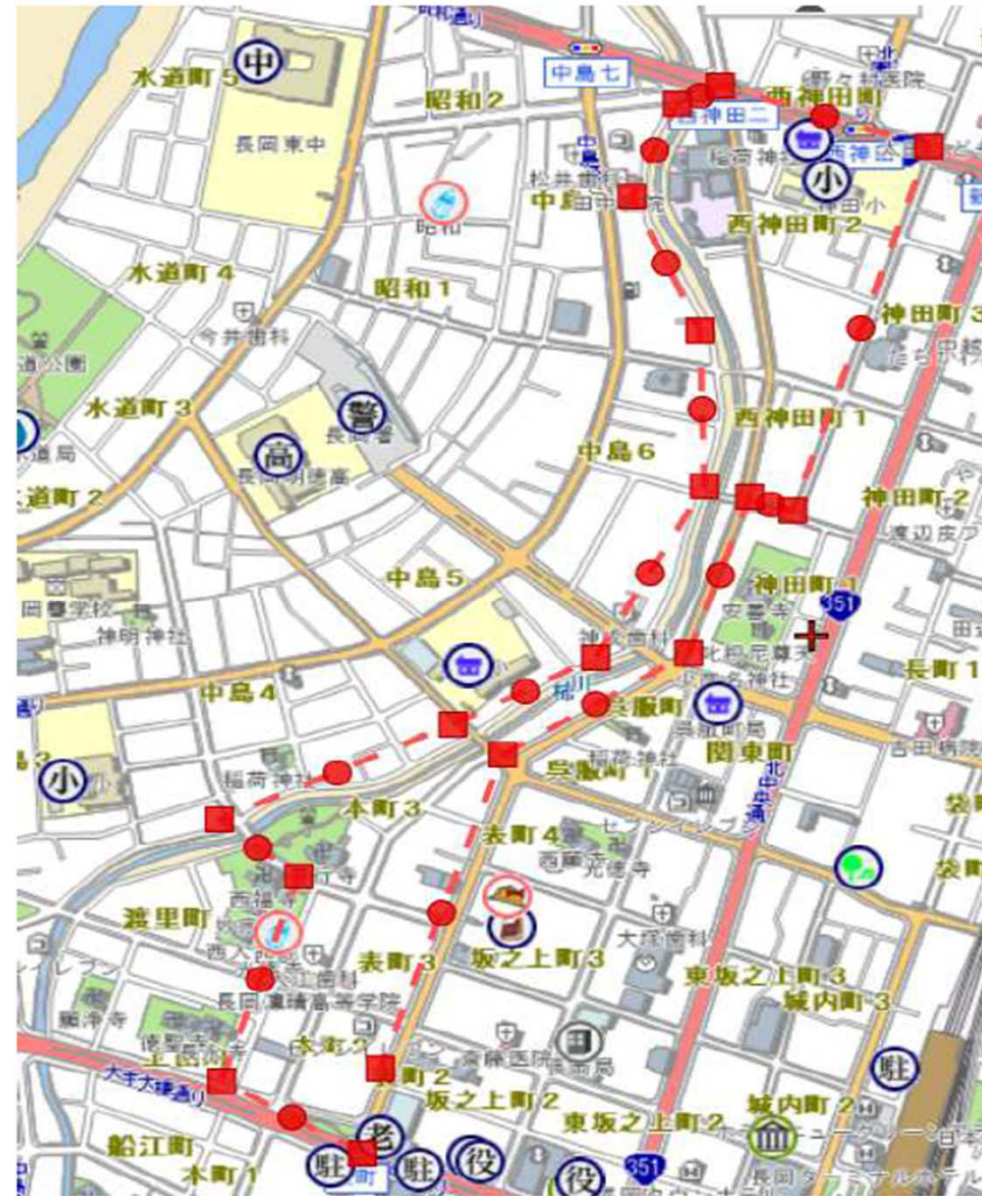
その翌年には、長岡花火が復活した。

もし駒形氏が頑張らなかったら、今に続く長岡祭り、
そして日本三大花火も、なかったかも。

石油産業コース案

柿川沿い中島の往時の製油所跡、
戦災前の石油産業関連工場跡、
西神田二丁目～石内一丁目にあった
新潟鐵工所長岡分工場跡、
長岡鉄工所組合跡を偲んで歩くコース
です。およそ3,400mになります。

岸宇吉の岸家菩提寺の西福寺、山口権三郎の
叔父・万吉の表町屋敷跡など、
産業関連の人物にゆかりの場所も
ご案内したい。



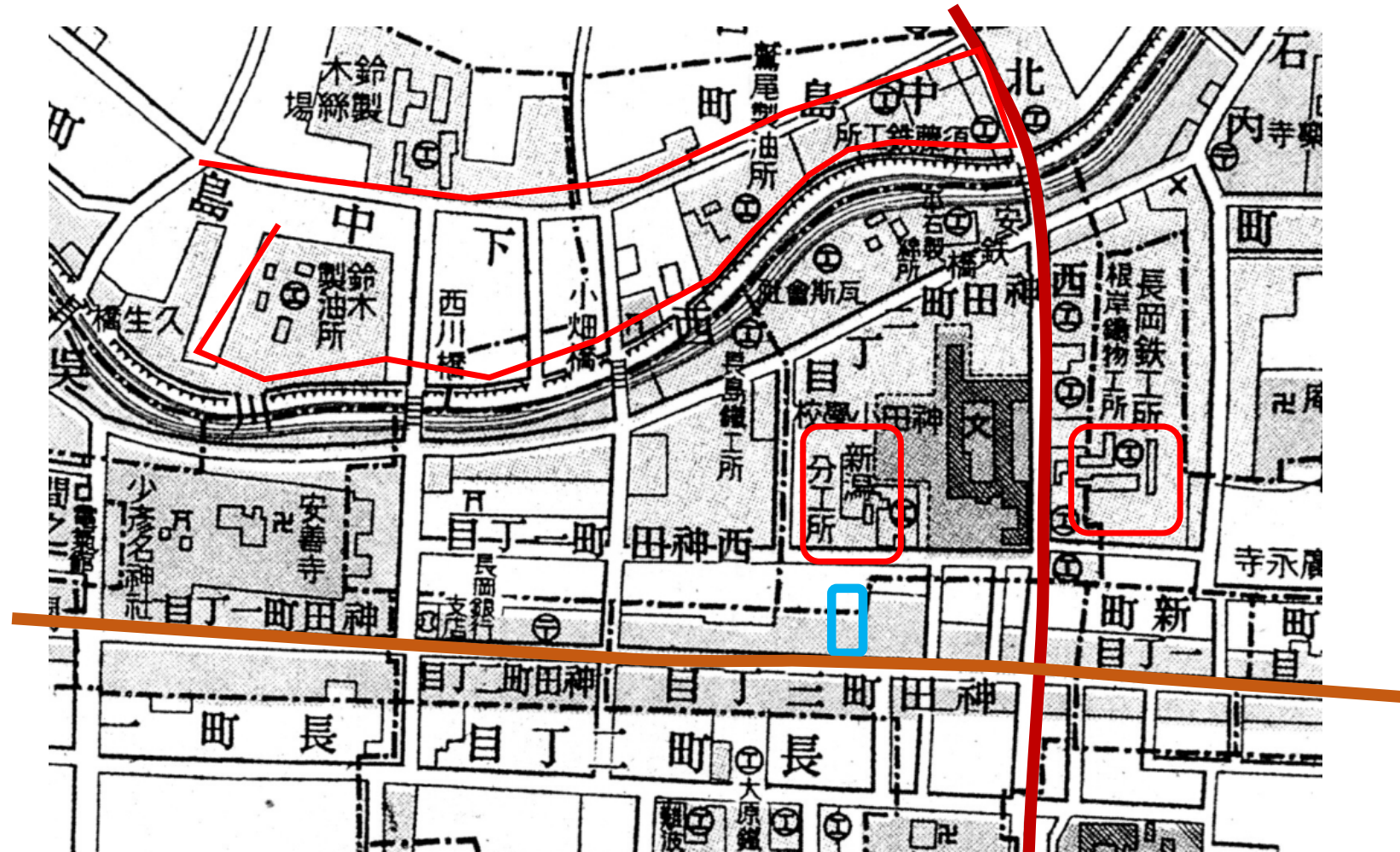
(1)大正時代の長岡

神田地区の北西、中島地区の柿川沿いに精油所が林立



長岡市 HPより

製油所群、及び新潟鉄工所長岡分工場、長岡鉄工所組合の位置（大正から昭和初期）



長岡市街地の北部、神田町周辺、図の上部に流れる柿川に沿って製油所

(2) 空襲の被災

蔵王地区は僅少であったのに対して、神田地区は新潟鐵工所長岡工場、大阪機械製作所、日本機械製作所などが全焼。市内の中小鉄工所もほとんどが焼失。

長岡の鉄工業のリーディング企業のひとつであった須藤鉄工所は、2月の全焼火災から再建したばかりのところに空襲で再度全焼し、ついに再起できなかったという。

新潟鐵工所長岡工場の被災では、工場全焼のほか、従業員の死者十名、重軽傷者7名、従業員の6割にあたる住居360戸と記録されている。

神田地区にあって空襲で全焼した新潟鐵工所長岡工場、日本機械製作所などは、戦後に各々移転し、それぞれの歴史を歩みます。

戦後に長岡に進出した機械、電子機器、化学関連の企業を含め、その多くの企業の約100年間の浮沈については、みなさん、ご存知の通りです。

まだ生々しいところもありますが、そろそろ、『軽く』ガイドの話題にしても、いい頃では、と思います。

長岡は、機械電子機器産業のみならず、
石油・天然ガスのエネルギー産業の町でもあります。

そして知らない人も多いと思いますが、
炭酸ガス地下蓄積、COガスからメタンガス生成の
実証プラント建設など、地球温暖化阻止のための、
現在進行形の日本最先端の研究実験の町でもあります。

悠久山堅正寺の門前に建つ「顕彰乃碑」と二体のブロンズ
産業界に貢献された山田又七、田村文四郎の
二氏のブロンズです。



町なか
ースと



を開始



自立の気概と それを担う人づくりは
長岡精神の根幹だ

公園開設百年の節目に当たり
私たちは先人への限りない敬意を込めて
「記憶之園」を築き人と時代を繋ぎ
故郷を潤す水脈を絶やさぬことを誓う

令和元年十月二十二日

悠久山公園百歳記念プロジェクト実行委員会

西園寺公望揮毫の「以成肅雍之徳」、
星野嘉保子像の復元像からはじめて、

町なかガイドには、戊辰の役、空襲戦災史跡だけではなく、たくさんの話題があることに気づかれたと思います。

雑談のなかで、ゲストが長岡に更に関心をもつようになり、もう一度、長岡を訪問したいと思っていただけたら、リピータ増にもなり、うれしいと思います。

みなさんのなかにも、『私も、こんな話を加えたい』と
感じておられる方がおられると思います。
そんな、ガイドにとっておきの、貴重な話題を集め、
みんなで共有するような”場”がほしいと思っています。